



提言書を提出する井嶋さん（中央左）と島田さん（左）。

学びの絶えぬ人生は幸せだ

ののいちマナビィフェスタ 2024

にぎわいの里ののいち カミーノで11月2日(土)・3日(日・祝)、「ののいちマナビィフェスタ 2024」が開催されました。市内団体・個人が生涯学習の成果を発表する年に1度のイベントに、約2,400人が来場。会場内では飲食物や衣料品を販売する出店、工作体験や茶席など、多種多様な催しが開かれました。自ら進んで学びに取り組み、身に付けた知識や技術を披露する皆さんの表情は、生き生きとしたエネルギーに満ち溢れていました。

持続可能なまちにしたい、若者の思い 子ども若者議会 提言書の提出

10月24日(休)に、子ども若者議会議長の井嶋菜月さん、副議長の島田颯稀さんが市議会へ2つの提言書を提出しました。1つ目は「歩きたくなるまち（ウォークアブルシティ）」を目指して花を増やすなど市民がまちを歩くことを楽しめるように取り組むこと。2つ目は「脱炭素・循環型社会」に向けて若者が地域の人と共に畑で野菜を作ることなどに取り組むことです。

この提言について話し合った子ども若者議会の様子は30ページをご覧ください。



フラダンスサークル「アロアロ」の美しい踊りに思わずうっとり。



「科学が苦手でも引き込まれる」と本の魅力を熱弁する俵さん。

“好き”で戦う「本の甲子園」

全国高等学校ビブリオバトル 2024 石川県大会

11月4日(月・振休)、全国高等学校ビブリオバトルの県大会が学びの杜ののいち カレードで開催されました。ビブリオバトルとは、バトラー（発表者）がおすすめの本を5分で紹介し、聴衆が一番読みたくなった「チャンプ本」を決める書評合戦。今年は3校5人が、約40人の観客を前に舌戦を繰り広げました。投票の結果、北陸学院高校1年の俵花恋さんが紹介した『空想科学読本』がチャンプ本に選ばれました。俵さんは、来年1月に東京で開催される決勝大会へ駒を進めます。



参加者を代表し、力強く“誓いの言葉”を述べた越村さん。

未来を見据え、志を立てる時

令和6年度野々市市立志式・記念講演会

市内在住の中学2年生537人を対象に、11月12日(火)に野々市中学校、15日(金)に布水中学校で立志式が挙行されました。野々市中の式典では、生徒代表の越村才士朗さんが「一人一人が素晴らしい未来を切り開くために日々努力する」と決意を述べました。式典後は、世界ジェラート大使の柴野大造氏による記念講演を実施。「成功の反対は何もしないこと。『期限付き』の目標を立てて、決意を持って行動してください」と柴野氏が話すと、生徒たちは真剣に聞き入っていました。

まちの話題 Focus

皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。
市民協働課 ☎ 227-6056

街道の歴史に思いをはせて

第12回 北国街道野々市の市

10月13日(日)、旧北国街道沿い（本町通り）を歩行者天国にして「北国街道野々市の市」が開催されました。通りには食事や体験など49のブースが所狭しと立ち並び、そぞろ歩きしながらイベントを楽しむ人でいっぱい。今年は、本町の獅子舞と豊年野菜神輿による4町「アワセ」やIKERU NONOICHI 2024が同日開催とあって、多くの人でにぎわいました。メインステージでは、市内の団体に加え、輪島高洲太鼓が友情出演。来場者たちは足を止め、楽しそうに太鼓を叩く姿とその迫力に目を奪われていました。

12日(土)の前夜祭では、渋川流剣詩舞道と野々市じょんから踊りがプロジェクションマッピングと共演しました。光を浴びた演者の姿はより一層優美に映り、観衆の心を引き付けました。



①活気溢れる様子は、かつての「市」を思い起こさせます。②輪島高洲太鼓。③郷土資料館 NoNoでの箏曲。④石の模型を投げて飛距離を競う「弁慶の石コンテスト」⑤・⑥プロジェクションマッピングは金沢工業大学が協力。



IKERU 野々市、つながる能登・珠洲

IKERU NONOICHI 2024

「北国街道・野々市をIKERU（生ける・活ける・いける）」をコンセプトに令和3年から開催しているIKERU NONOICHI。今年は、10月13日(日)～20日(日)の8日間開催されました。

国指定重要文化財 喜多家住宅では「喜多家を活ける」と題したフラワーアートを実施。生花店3店の次男3人で組織するフラワーユニット「jinan」が喜多家を飾りました。また、珠洲市の市花木が野々市市と同じツバキという縁から、郷土資料館 NoNo では珠洲焼の展示・販売を行う「珠洲焼展」、1の1 NONOICHI では能登の物産品を販売する「野々市から復興応援能登フェア」が開催されました。20日(日)には、館野小学校児童のアイデアを元に作られた能登の食材を使った最中と珠洲焼の茶碗でお茶を楽しむ「IKERU 茶席」が郷土資料館 NoNo に登場。来場者は「最中の上品な甘さとお茶のほろ苦さが合っていておいしい」などと話し、能登・珠洲へ思いを寄せました。

①ユーカリの鉢の下に“野々市こどもセンター放課後子ども教室”に参加する児童が花を添えて完成した作品。②喜多家住宅の各部屋に生花やドライフラワーなどを飾りました。③能登の物産品も好評。④市茶道協会がお茶をたてました。⑤能登の食材の他にツバキの花びらジャムも入った最中。⑥マグカップや花器などの商品がずらり。